

第3回佐用町地球温暖化対策実行計画検討委員会

日時	令和8年1月8日(木) 15時00分~16時30分
場所	佐用町役場本庁 西館2階 防災会議室1
出席者	<p>【委員】増原直樹、尾崎貴之、間嶋禮次郎、久保正彦、井上洋文、合田裕宣、高見國一</p> <p>【事務局】住民課 福岡課長、新井所長、川中</p> <p>【国際航業】福田、小西</p>
配布資料	<p>(事前配布)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1:計画書素案 ・資料2:資料編
議事内容	
1 開会 2 議事	<p>佐用町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)素案(資料1)</p> <p>※資料編(資料2)</p> <p>資料1・資料2に基づき事務局が説明</p>
委員長	<p>・第1章はさらに誤字脱字がある可能性があるが、締め切りも近いので第1章は一応この形ということで確認させていただいた。第2章の説明はなかったが、現況の温室効果ガスの排出状況ということで、国のデータ等も使いながら将来推計もマニュアルとおりにしており、そちらに基づいて計算していただいている。</p>
委員	<p>・計算の仕方がわからなかったの確認したい。2-4ページでは温室効果ガス排出量が2030年代は「94.1」だが、2-5ページの本文では「19.9」となっている。これはなぜか。</p>
委員長	<p>・2-5ページの数字は下の表から来ている。各部門で対策をして減る量がこれくらいだろうという数字。2-4ページは現状すう勢で「人口が減るでしょう、車の台数が減るでしょう」というものがそもそもあって、そこからさらに具体的な省エネ対策で現状すう勢よりも削減量が積み増しされると理解している。</p>
受託者	<p>・2-3ページをご覧いただきたい。表2-2に社会情勢の変化に応じて省エネ対策を実施しない場合、社会情勢によってどう推移していくかという数字が上がっている。ここで見ると、2022年度115.5で2030年度が114.1。2-5ページの表は削減量という考え方で、現状からどれだけ2030年までに削減できるのかという数字。この現状すう勢である2-3ページの表2-2の数字「114.1-19.9」、要するに社会情勢で2030年まではこれくらい減っていく。そこからさらに省エネ対策をすることによって19.9減るということのため、114.1から19.9を引くと、2-4ページの表2-3にある省エネ対策を実施した場合の排出量になる。小数点は四捨五入の関係で整合しない場合がある。「114.1-19.9=94.2」になるが、計算上は「94.1」となる。</p>
委員	<p>・承知した。</p>
委員長	<p>・私の手元の資料と図表番号が違う。ずれている。再度ご確認いただきたい。</p> <p>・2-2ページ「図2-3 森林吸収量・温室効果ガス排出量の推移」は図でなくて表で</p>

第3回佐用町地球温暖化対策実行計画検討委員会

受託者	<ul style="list-style-type: none"> はないか。 ・2-2ページ以降の表番号がおかしい。本文に引用している場合はそこも併せて修正いただきたい。 ・承知した。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小数点以下は1桁ということで「19.9」になっているが、本来、114.1から94.1を引くと20.0になる。1桁であれば1桁でよいのかなと思うが、上の部門ごとのところが違う。数字を見せているのであれば変える必要もないのでは。むしろその1桁、2桁目、小数点第2以降がどうであろうとどこかで合わせる必要があるのではないか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・0.175の数字が影響している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ここだけ小数点以下が3つ出ているからおかしい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・微妙なので出しておいてもらったと思うが、逆にそれでわからなくなってしまっている。私はあまり細かくはこだわらないが、桁と表番号を見直していただきたい。
受託者	<ul style="list-style-type: none"> ・承知した。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・第3章はご説明にあったように、前回、2040年というカーボンニュートラル目標、国よりも10年早くということを出していたが、なかなか現実的に難しいのではないかと、町長とも協議して2050年ということになった。他の自治体、国、或いは兵庫県と足並みを揃える形。それに伴って、再生可能エネルギーの導入目標等が修正されている。 ・こうやって見るとやはり吸収量が多い。たとえば3-2ページ、佐用町全体では1,541くらいのエネルギーを使うが、再生可能エネルギーは355で済むということなので、他の部分は森林が吸収してくれるということ。
受託者	<ul style="list-style-type: none"> ・そういうことになる。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・結構恵まれているので、それを大切に保全、積極的に活用していくということが求められる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・3-1ページの表3-1、導入規模について。2050年の目標で、2040年で切っているが何か理由があるのか。
受託者	<ul style="list-style-type: none"> ・2050年カーボンニュートラルという形だが、今、国が2030年、2035年、2040年までの目標を立てているため、ここでも2040年までで区切りをとっている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・目標設定を2050年としたということなので、2040年で切るのはいかがでしょうか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・多分、2050年まで計算はしてある。
受託者	<ul style="list-style-type: none"> ・おっしゃるとおり、2050年までの計算はあるが、国の2040年までの目標数値に合わせた導入量という形にしている。2050年を入れるのは問題ない。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・入れるのはよいが、5年刻みだったり10年刻みだったり、少し気持ち悪いので、逆に2035年を落として、2030年、2040年、2050年にするのはどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・そうすると他のページもすべて修正が必要になってくる。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・2045年がないのは目をつぶって、2050年を単純に足すか。

第3回佐用町地球温暖化対策実行計画検討委員会

受託者 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・承知した。 ・全体が狭くなるが。細かい話だが年度は切ってもよいかも。「導入規模(年度)」にしておいて「2030、2035、2040、2050」とすればよいのでは。 ・2040年、2050年にこの1住宅あたり約5.1kWというのも変わっている可能性もある。もうすでに新しい壁掛けや窓で対応するようになっていっているので、そういうところも構造から全部変わってくる可能性があるのでは、書かないという選択肢もあるが難しい。何か注釈をつけるか。
委員 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・これを目標として守っていくのか。 ・これが目安になる。
委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「1住宅あたり約5.1kWの太陽光パネルをつけてください」という話。 ・指標として設定させていただいているが、実際のところは「つけろ」とは言えない。こういうことをすれば地球温暖化がカーボンニュートラルにいくということを周知して知っていただくのがまず一番。もっと言えば、補助金がいっぱいつけば皆さんやってくれると思う。ただ、この前も町長が言われていたが、財政的に国や県の方がつけていただければできる可能性はあるが、何もなしでつけるというのは正直なところ非常に難しい。せめてこれから建てる方はこれもセットで考えていただきたい。
委員 事務局 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・あくまで目標設定ということか。 ・そういうことになる。 ・町が守って欲しい目標は第4章の取組目標のところ。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・4-11ページ、町民・事業者の取組の「森林整備の促進のため、原木を「木材ステーションさよう」へ持ち込みましょう。」ということについて。事業者には丸がないが、原木かだんだん大きくなると、町民個人での持ち込みができないというのが現状。そのため、事業者の方にも丸を付けた方がよいのではないかと。
委員長 受託者	<ul style="list-style-type: none"> ・林業者があるため、事業者も該当する。 ・承知した。
委員 事務局 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・4-12ページ、取組目標について。目標としての数値を示されているが、この数値化というのは何か見えているものがあるのか。現実的なものを教えていただきたい。 ・担当の農林振興課の方に数字を出していただいている。 ・スマート林業であれば0から2になっているので、なかなかどうなのかなというところがあるので、わからなかった。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・目標としてそれくらい。これからどんどん従事人口が減っていく中で、効率的に進めるには必要かというところで上げている。
受託者	<ul style="list-style-type: none"> ・私の知る限りでは、佐用町の森林環境譲与税という交付税を使って、スマート農業やスマート林業の活動、勉強会などを開きながら進めているような状況が今、毎年、令和元年度から令和6年度までの活動として推進されている。それを受けて、2030年までの目標として担当課に聞いていただき、それを数字として上げているような状況である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・佐用町の取組として特徴的なものというは、こういったところになるのか。

第3回佐用町地球温暖化対策実行計画検討委員会

受託者	・そういうことになる。
委員	・「佐用町として特徴的なものは？」と聞かれたときには、このページを説明すればよいという認識で合っているか。
受託者	・森林や自然豊かな町であるため、森林保全という意味では、こういった活動が佐用町としてのオリジナルになってくるのではないかと思う。
委員	・承知した。
委員長	・非常に重要なところだと思う。私も最初から気になっていた。特に町有林化は5、6年で5倍ということで、大丈夫かなと思ったが、町としてこういう目標を掲げているということで大丈夫ということである。
委員	・寄付も多い。
委員長	・逆に「もう手がかけられないから引き取ってほしい」ということもある。
事務局	・問い合わせも多いが、条件がいろいろあるため希望があっても受けられない場所もある。
委員	・10年でやめるという話も議員から聞いていた。
事務局	・そういう話は今のところ聞いていない。
委員	・どんどん買い続けるのか。
事務局	・どこかで区切りは付けると思う。
委員	・スマート農業の事業の具体的なものはホームページ等を見に行けばよいのか。「スマート農業とは、スマート林業とは」という一般的な話の説明はあるが、佐用町の事業としてはどんなことをやっているのか興味がある。
受託者	・私の知る限りでは、具体的にはまだ載っていない。強いて言うなら、先ほど申し上げた森林環境譲与税の用途は公表されているものがある。具体的などころまでは上がっていないが、抽象的な表現で「スマート農業の実施」等、そういったことは上がっている。
委員	・承知した。
委員長	・スマート農業もスマート林業も基本的に農業者、林業者の民間事業だが、それを町の方で、たとえば「2024年は5件ある」といったことは、届け出は義務ではなくヒアリング等に基づくとということになるのか。町が知っている範囲でということになるのか。本当はもっとやっているかもしれないし、もうすでにスマート林業に取り組んでいるところもあるかもしれないが、町としては情報を持ってないと。
事務局	・町が把握している件数が5件ということになる。
委員長	・それは仕方がない。
委員	・森林施業をする施業家がいなくなっている。その担い手を育成せずに大丈夫なのか。「スマート農業、スマート林業をします」というのは、だんだんに人がいなくなる中でそれは当然の流れだが、それで町有林化をどんどん推進して5倍にしていって、それを何とか伐採していくが、担い手はどうしてもいるのではないかと思う。そういうのが先に立ってもよいのではないか。担い手をつくらずに「何かします」と言っても絶対にできない。「この話ではない」と言われそうだが。
委員長	・多分そういうことになる。佐用町の森林ビジョンの中で検討されているだろうという数値の推定。

第3回佐用町地球温暖化対策実行計画検討委員会

事務局 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・申し訳ないが事業の中身を全部見ているわけではない。 ・ここでは地球温暖化や吸収減に関係するところだけ引いてきているということ。 ・全国的には林業者数は増えている。若返りは農業も同じ。ある程度の法人化等をして若返りを進めていく。問題意識は共有できるかと思う。 ・木材ステーションの取組は、多少、他の地域でも見かけるが結構面白いと思う。すばらしいので、ぜひ継続できるように。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・4-10ページ、農業システム構築とはどのようなことか。ここでは荒廃農地の再生などについては入れられていないが。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・町で農業ビジョンのようなものがあるのか。農業振興計画。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・また別の話なのか。だんだんと荒廃農地が増えてくるが、その対策がない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光は農地の方にはつけられないし、つけようと思うと農地転用や農地保護の観点もあるため、今言われているのは荒廃農地を再生させるものに取り組むことになるのかと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・別の問題か。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・難しい。全部つながっているのだから。本当は食糧生産をしながら、こういう CO₂ 吸収もあるということで、農地として維持されるのが望ましいと。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・農地は農地として食糧を生み出すところであるため、それはきっちり保護した上での形が一番よい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・農地はできるだけ維持して、この農業システムは堆肥や有機物のこと等で、農地が維持されている前提で、その上で工夫しようということしか書けないのではないか。本当は農業器具の電化など、そういうものもあると思うが、そこまで書くのは難しいか。もう少し先の話か。まだそんなに一般的ではないか。
受託者 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そういうことになる。 ・では、2030年以降に期待したい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この資料を作成するのに相当な時間を費やされると思うが、AI を駆使されて資料を作成されたのか。取組や目標など、あれもやりますこれもやりますというような感じで、ここで上げてしまうのはどうかと思った。本当にこれができるのか、できないのか。そういうところまで研究、考慮して数字が上がってきたのか。AI にそのまま横並びで出てきたものなのか、そこら辺が知りたい。
受託者	<ul style="list-style-type: none"> ・弊社の数値的な根拠において申し上げますと、決して AI を使っているというわけではなく、国・県、そして佐用町の統計データ、そういったところの数字を根拠にしており、計算方法については計算式がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる資料を入力されて出来上がったということか。
受託者	<ul style="list-style-type: none"> ・そういうことになる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・果たして実践できるのかと思ったところがあるため、聞いてみた。
受託者	<ul style="list-style-type: none"> ・取組自体はこれだけ多岐にわたる分野になるため、本当に数は多いかと思うが、決して住民課が単独で動くのではなく、庁内の関係部署の方と連携して取り組んでいかなければ実施できないと思っている。そのあたりは、体制、推進の管理の方で示さ

第3回佐用町地球温暖化対策実行計画検討委員会

委員長	<p>せていただいているため、あとは町の方に頑張ってくださいというところ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大変重要なご指摘で、先ほどもご説明があったように、2030年、2040年と中間目標もあるが、そこは事業者・町民・町役場だけで達成できるということではないので、なかなか100%確約することは難しいが、できるだけその方向に向かって努力をしていきたいと思いますということだと思います。一方で、今ご指摘のあった第4章の取組目標、特に一番最初のもは多分4-6ページに出てくるので、取組のブロックごとに、広報・ホームページでの周知、2030年、毎年という解釈でよいと思う。年1回以上。環境学習の出前講座も年2回やりますというのがあるので、ここも相手のことはあるが、少なくとも2030年度に100%目標達成できるように、町の中でしっかり「何年にいつからどういう取り組みをするのか」と。全体的にそんなに難しいことは書いてないと思う。やはり町民・事業者と一緒にやるということは難しいと思うが、取組目標については基本的には町の努力であるとも言えないが、数字を書いている以上は、やはり100%を目指してというふうには個人的には思う。そのため、まず大きな目標があり、その取組目標、個別のものがある、それに向かって必要な施策を町の方で率先的に、事業者と町民を巻き込んで積極的にやっていただくというところは最低限確保していただきたい。そういう意味で取組目標というものが書かれているということ。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・町としてできることを書いている。「うちエコ診断」や件数などは別として、あとの広報や4-6ページの出前講座などは目標を達成するようにしたい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・「うちエコ診断」「省エネ最適化診断」も相手のある話だが、積極的に。それから、関連するイベントがあれば出展して、そのイベントの中でこういう書類を持っていけば、その会場で診断が受けられるような感じで機会を提供していただければ。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・そうすれば「やろうじゃないか」という方が増えると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・4-31ページ、図のステップ3で「特別養護老人ホーム」や「道の駅ひらふく」など決め打ちがしてあるが、障害者福祉施設や老健施設が佐用町内には結構たくさんある。だからそれが「特別養護老人ホーム」だけするのか、「道の駅ひらふく」や「元気工房」もある。何かここで決め打ちしている理由があるのか。
受託者	<ul style="list-style-type: none"> ・ここで名称を挙げさせていただいたのは、モデル的、代表的なところということで掲載させていただいている。そう感じられるかと思ったため、図のタイトルでは「イメージ」とし、少し表現を和らげている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージ的にこれを見たら決め打ちしていると思ってしまう。
受託者	<ul style="list-style-type: none"> ・熱をよく使う施設という意味で抽出させていただいている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉施設の宿泊を持っているところや養護老人ホーム。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・それを書いてほしかった。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・広めに書けばよいのではないかと。特養に限らず。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・老健施設、病院。佐用町には福祉医療施設がいっぱいある。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・行政として、町として、特養が一番声をかけやすいということはあるのかもしれない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ここに書かれたら「やるんだな」と思う。特養は4施設しかない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・たとえば、「福祉施設」や「介護施設」という書き方にする。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し一般的に。病院という話もあったので、特に入院病床を持っているところは

第3回佐用町地球温暖化対策実行計画検討委員会

委員	かなりお湯を使う。「福祉医療施設」など、そういう一般的な名詞で対象を広げていただくということで検討していくと。
委員長	・近くには県は跨ぐが岡山県西粟倉にも非常に先進的な事例がある。
委員	・ただ、西粟倉も料金が結構高いと聞いた。
委員長	・狭いから。役場と幼稚園の間。
委員	・一度、あそこに入れている事業者と話をしたことある。佐用に入れたらどうかと話をしたら、やはり高い。補助金を出しながら高く買わなければいけないので余計高いところがあり、やはり少ししんどいなと、その時は思った。
委員長	・変な話だが、石油が高くなればペイするようになっている。
委員	・図の中で恐縮だが、特養のところはもう少し広げたイメージで書いていただく。
委員長	・「道の駅ひらふく」も違う書きの方がよいのではないか。
委員	・「道の駅ひらふく」は公共施設か。
委員長	・運営は株式会社。
委員	・建物を持っているのが町であれば公共施設。
委員長	・学校はどうなのか。
委員	・給食を作っているところは結構お湯を使う。学校本体はそんなにお湯は使わない。温水プールなどがあれば別だが。
委員長	・「商業施設等」と書けばよいのではないか。
事務局	・本文中にあるが、災害時の避難所に指定されているところでこういう熱源を確保しておくのは非常に重要で、その意味だと全国的には道の駅が避難所になっているところがある。「道の駅ひらふく」はわからないが。
委員	・体育館の方も避難所としてどうかという話も出ているので、夏は暑いし、冬は寒いし。そういう見直しも今後かかってくる可能性はある。広い空間ではあるが基本的に人が住むところではないので。
委員長	・学校は（統合は決定しているわけではないが）統合することを前提にしているのか。
事務局	・教育委員会がやっていると思うが「あり方検討委員会」を作って検討はされていると。統合ありきではないと思うが、いろんな可能性を今探っている状態だとは聞いている。その中でどうなったかということまではまだないと思う。
委員	・体育館の問題でも、統合するのとしないのとでは違う。
事務局	・出生数もかなり減っている。
委員長	・そういう意味でも固有名詞はあまり。イメージとしてはもちろんわかるが、なかなか難しいので、役場以外は少し広げた形で。
受託者	・承知した。
委員長	・「農業ハウス等」はよいが再度確認いただきたい。
委員長	・森林ビジョンや農業、学校教育や他の分野の政策と、かなり関連があることがわかってきたかと思う。
事務局	・第5章について。庁内組織で地球温暖化対策推進委員会を作るとあるが。
委員長	・これは今もある。
委員長	・これは本部長ではなく委員長のようなのを置かれているのか。

第3回佐用町地球温暖化対策実行計画検討委員会

事務局	・副町長。この温暖化対策の実行計画の事務事業編で役場内での管理を行っている。
委員長	・この委員会に今回は区域施策編も仕事として担っていただくということ。最初にこの委員会の名前が出てくるところに「委員長」や「副町長」などを括弧書きで入れてもらいたい。どのくらい重い組織かということがわからないので。他の自治体だと町長が委員長をやっている場合もあるし、推進本部のようにして本部長のようにしている場合もあるので、佐用町は副町長ということ。それは別に町長でないといけな いわけではなく、実際にある組織だということがわかることが大切。
受託者	・承知した。
委員	・町の率先的取組について。バイオマスや小水力と書かれているが、風力発電の利用可能性もあると言えど伺ったが、ここには全然、加味されていない。
事務局	・潜在ポテンシャルはあるが、風の通る、たとえば山などに設置する場合、まずそこに至るまでの道路の開発など、そのものが非常に大きいため、道路もかなり大規模な道路を作って設置しなければいけない。そうすると費用の面でもそうだが、現実的には難しいということで、この計画からは外させていただいた。
委員長	・資料編に今のことが少し書いてあるが読み取りにくい。兵庫県内はこういう形でポテンシャルは出てくるが、民家も近いため、あまり無理して導入することもないのではないかと思う。明石市の明石海峡であれば風力発電ができると出たが、あそこに風車を建てるわけにはいかないということで断念した。
委員	・バイオマスを使った発電所が2本あるが、結構、爆発など火事の事故が他のもの と比べて格段多いという情報を聞いたことある。危険性や安全性を入れるときに、ポテンシャルと相殺できるものなのか。
受託者	・なかなか難しいご質問で、火災などについては何とも申し上げにくい が、一応、建築物という扱いの中にも入り、設備扱いという形になるため、当然、届け出が必要になってくる。安全性という意味ではあまり気にされなくてもよいのではないかとは思っている。あとポテンシャルがある中で、今ご提案させていただいているのは50キロ未満のあまり手続きでも難しいものでもなく、できるだけ容易にということもあり、50キロ未満のものでご提案させていただいている。小型のバイオマス。先ほどご指摘いただいたイメージ図のところ、秋田県の北秋田市が導入されたのが道の駅に小型のバイオマス発電を導入して、発電したものは建物の電源に供給して、そこで出た排熱を足湯のお湯に使うような形で、電力も熱も使えるというものである。それは北秋田市の森林資源を活用して、建物のエネルギーを抑えるということと、あとは観光資源として観光によい形で働いていくところも含めて、上手な活用方法としている。50キロがどれくらいの面積かという、駐車場が大体2台分くらい。2台分くらいは少し潰してしまうような形になるが、それくらいの面積で50キロくらいの発電量が確保できる形なので、そういった施設をこちらの役場や先ほどの福祉関係、介護施設、そういったところに付けるようになれば、より効果的でもあり、電力の削減にも繋が り、当然 CO ₂ の削減にも繋がっていくかと思っている。

第3回佐用町地球温暖化対策実行計画検討委員会

委員	・バイオマスのチップを作る会社があるかと思うが、朝来市かどこかの会社が潰れたようなことを聞いたが、儲からないものなのか。
受託者	・それは関西電力が詳しいのではないか。
委員長	・発電所自体が潰れた。
委員	・契約発電量を確保できず、ペナルティがかかって逆にお金を払わなくてはならないことになり潰れた。
委員長	・今は民間会社に買い取られて去年から再開し、設備自体は使われている。
委員	・要するに木材が集まらなかった。
委員長	・ウッドショックが引き金になった。うちの学生が、再建したところを朝来市の担当課長にこの間ヒアリングに行き、いろいろ教えてもらった。もうすぐ論文も完成するかと。
委員	・これを見たら太陽光発電と木質バイオマスだけ。
委員長	・木質バイオマスがあるだけよい。
委員	・他の市町はどうなのか。
委員長	・森林がない住宅都市のようなところは基本的に太陽光、頑張って太陽熱ぐらい。この委員会がもう少し時間があれば、木質バイオマス、太陽熱、地中熱利用もやり方によってはできなくもないので検討はしたかったが時間切れ。
委員	・そのあたりが今のあるものだけで言っているという感じがある。それだけでよいのかと思った。
委員長	・本当はエネルギー源の多様化も必要かと思う。
委員	・本当にできるのかと懐疑的になってしまう。
事務局	・これは2026年から2030年までの5年間の計画だが、最終目標は2050年カーボンニュートラルであるため、次の計画の更新時にはその時々々の社会情勢も違ってくると思うので、その辺はアップデートしながら2050年カーボンニュートラルを目指していきたいと思っている。
委員	・計画に落としてはいるが、なかなか現実には難しいのではないか。
事務局	・あくまで皆さんに呼びかけて、していただくという方が大きいので、特にこの取組の方、ソフト面。その辺は最初にごみの分別をお願いしたときもそうだったが、各集落を回って説明会をしたときに「年寄りはそのまもできない」という話をいっぱいいただいた。佐用町は今、実際に西播磨クリーンセンターにごみが全部集約されるようになって、それまで佐用町はごみの分別は可燃と不燃の2種類だけだった。他のたつのや上郡や宍粟、この辺はもうすでに分別が始まっていて、ものすごく佐用町は心配された。本当に分別ができるのかと。しかし、始まってみたら佐用町の皆さんは非常に真面目で「佐用町の分別が一番綺麗だ」と言っていただけになった。
委員	・住民ができることは太陽光くらいしかない。
事務局	・施設面や費用のことがあるので、第4章にもあるような、ごみの取組などのちょっとしたことで少しでも進めていただければ。
委員長	・バイオマスでは何を燃料として使うかが非常に重要だと思っている。先ほど朝来の話もあったが、朝来も割と広域で、豊岡など、かなり無理をしてというほどではないが、広域で集めるということがあり、赤穂などの近隣でも大規模なバイオマス発電所ができていて、基本的に国内は結構、木材は燃料として取り合いになっている。し

第3回佐用町地球温暖化対策実行計画検討委員会

<p>3 その他 事務局</p> <p>委員長</p> <p>4 閉会</p>	<p>かし、輸入してカナダ産の木材などを使うのは本末転倒かと思うため、きちんと地元の木材をうまく燃やすだけでなく、建材も含めてきちんと活用していくという視点が重要。先ほど確認したようにあまり言いすぎると「森林ビジョンに書いてあるではないか」ということになるため、その辺をうまく担当課と連携して、関係の検討はぜひ進めていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2030年、どのタイミングで見直しがあるかわからないが、国産の太陽光発電などにも期待が集まっており、もっと進んでいる可能性もあるため、そういったところも踏まえて、さらに目標に向かっていけるように検討されるとよい。少し宿題的な形ではあるが。 <p>事務局が説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の予定について。今日、議論いただいた内容を修正したものを2月にパブリックコメントにかけ、皆さんからご意見いただいた上で完成という形にさせていただきます。 ・パブリックコメントもあるため、そこでもぜひご意見をいただきたい。 <p>～略～</p>
以上	